

入学者選抜制度についてのアンケート及び調査について

- 1 アンケート及び調査の概要
- 2 「神奈川県公立高校入学者選抜についてのアンケート」の結果
- 3 「評点と学力検査の相関調査」の結果
- 4 「通学区域別志願状況調査」の結果

平成 17 年 7 月

神奈川県教育委員会

1 アンケート及び調査の概要 (実施時期 平成 17 年 4 月 27 日～平成 17 年 5 月 27 日)

(1) 「神奈川県公立高校入学者選抜についてのアンケート」の概要

ア 対 象

	選抜制度 の改善	通学区域 の撤廃	絶対評価 の活用	備 考
市町村教育委員会				37 教育委員会
公立中学校長				417 中学のうち 146 中学を無作為抽出
県立高等学校長				152 校
生徒(全日制の課程の 高校1年生)				無作為抽出した県立高校 5 校の高校 1 年生(1,147 人)
保護者				同上の保護者(942 人)

イ 回 答 率

	全体数	対象数(A)	回答数(I)	回答率 (I)÷(A)
市町村教育委員会	37	37	37	100%
市町村立中学校長	417	146	131	89.7%
県立高等学校長	152	152	152	100%
生徒	73,274(*)	1,218	1,147	94.1%
保護者	73,274(*)	1,218	942	77.3%

(*) 全体数内訳 = (前期選抜面接者数...44,183人) + (後期選抜学力検査受検者数...29,091人)

(2) 「評点と学力検査の相関調査」の概要

ア 内 容

合計点及び各教科(国語、社会、数学、理科、英語)について、評点と学力検査の相関を調査する。

イ 対 象

県立高校から 5 校を無作為抽出して、後期選抜合格者(672 人)について調査

	全体数	対象数
後期合格者	21,581	672

(3) 「通学区域別志願状況調査」の概要

ア 内 容

平成 16 年度及び平成 17 年度入学者選抜における、各学区からの志願状況を調査する。

イ 対 象

県立高校全校(152 校)を対象に調査

資料の表は、平成 16 年度入学者選抜まで学区が設定されていた全日制普通科(専門コースを含む)の志願者についてのものです。

2 「神奈川県公立高校入学者選抜についてのアンケート」の結果

< 選抜制度の改善について >

問 1

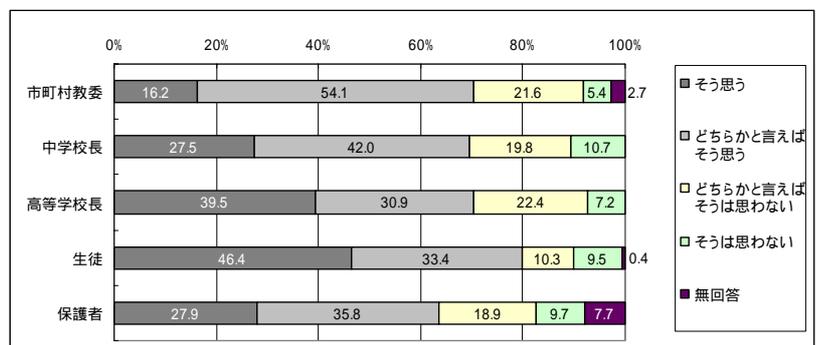
(市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

前期選抜では、中学校長の推薦が必要であった従前の選抜制度における推薦入学にかわり、希望する全ての生徒が志願でき、学力検査を実施せず、より一層一人ひとりの特性や長所を評価するようにしたことについて、よいことだと思いますか。

(生徒及び保護者向け)

前期選抜では、中学校の校長先生の推薦が必要なく、希望する誰もが志願できるようにしたことや学力検査を実施しないで面接などにより総合的選考で選抜するようにしたことについて、よいことだと思いますか。

市町村教委、中学校長、高等学校長及び生徒とも7割以上、保護者では、6割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、前期選抜の趣旨が肯定的に受けとめられている。



問 2 -

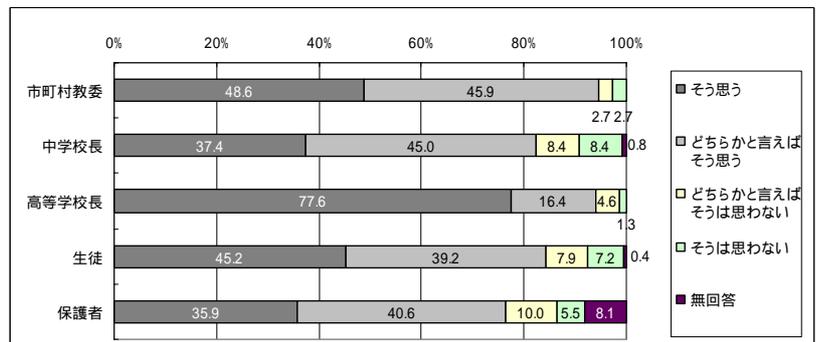
(市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

前期選抜の募集人員の割合を、各高校が特色に応じて一定の範囲で弾力的に扱えるようになってきていることについて、よいことだと思いますか。

(生徒及び保護者向け)

前期選抜の募集人員の割合を、各高校が特色に応じて一定の範囲で決められるようにしていることについて、よいことだと思いますか。

市町村教委、中学校長、高等学校長及び生徒とも8割以上、保護者では7割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、前期選抜の募集人員の弾力化について、肯定的に受けとめられている。



問2 -

(市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

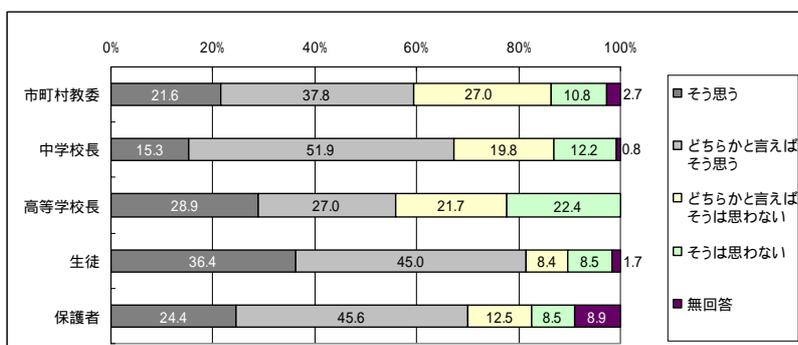
前期選抜の募集人員の割合の範囲が「20%～50%」となっていることについて、妥当だと思いますか。

(生徒及び保護者向け)

前期選抜の募集人員の割合の範囲が「20%～50%」となっていることについて、適当だと思いますか。

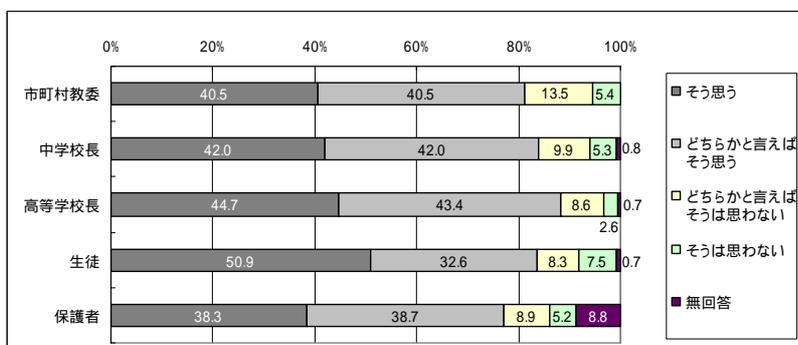
市町村教委、中学校長及び高等学校長とも、5割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、一定の理解は得られているが、「そうは思わない」あるいは「どちらかと言えばそうは思わない」の回答も、三者とも3割を超えており、特に高等学校長においては、合わせて44.1%となっている。

一方、生徒では8割以上、保護者では、7割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、概ね適当と受けとめられている。



問3 - 前期選抜の検査内容は、各学校の特色に応じて、面接及び必要に応じて学校が実施する検査（作文、実技検査、自己表現活動）となっていることについて、よいことだと思いますか。

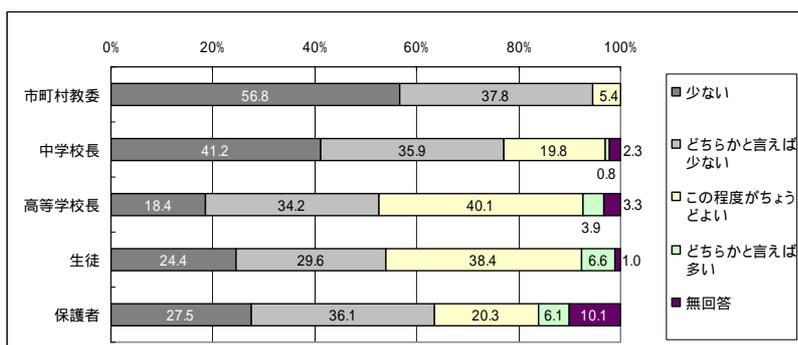
市町村教委、中学校長、高等学校長及び生徒とも8割以上、保護者では、7割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、前期選抜の検査内容について、肯定的に受けとめられている。



問3 - 前期選抜の必要に応じて学校が実施する検査（作文、実技検査、自己表現活動）を実施している学校数（166校中31校で実施）について、どう思いますか。

市町村教委及び中学校長とも、7割以上が、「少ない」あるいは「どちらかと言えば少ない」と感じており、特に市町村教委では94.6%と高率となっている。

また、高等学校長においては、「少ない」あるいは「どちらかと言えば少



ない」が 52.6%に上っている一方、「ちょうどよい」とする回答も 40.1%となっている。

前期選抜の必要に応じて実施する検査については、市町村教委と中学校側は現状では実施校が少なく感じているのに対し、高等学校側はそれほど少ないとは感じていないという結果となった。

一方、生徒及び保護者においては、ともに半数以上が「少ない」もしくは「どちらかと言えば少ない」としており、前期選抜における必要に応じて学校が実施する検査の実施校の校数について、半数以上が課題としている。

問 4

(市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

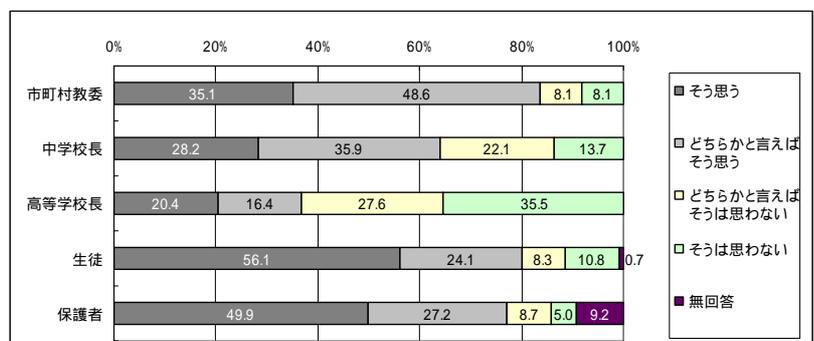
面接の際の参考資料として活用する「自己PR書」は、必要なものだと思いますか。

(生徒及び保護者向け)

面接の際の参考資料として活用する「自己PR書」は、面接をするときにあったほうがよいと思いますか。

市町村教委、生徒及び保護者においてはともに約 8 割、中学校長においては 6 割以上が「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答しているのに対し、高等学校長においては 4 割に満たず、逆に 63.1%が「そうは思わない」あるいは「どちらかと言えばそうは思わない」と回答している。

自己PR書については、市町村教委、中学校及び生徒・保護者側では必要と受けとめているが、高等学校側は必要性について検討することが必要という受けとめが多くなっている。



問 5

(市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

前期選抜における総合的選考について、その趣旨を生かした選考基準による選抜となっていると思いますか。

市町村教委及び中学校長とも、約 6 割が「そうは思わない」あるいは「どちらかと言えばそうは思わない」と回答しているのに対し、高等学校長においては、「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答しているのは 8 割を超えている。

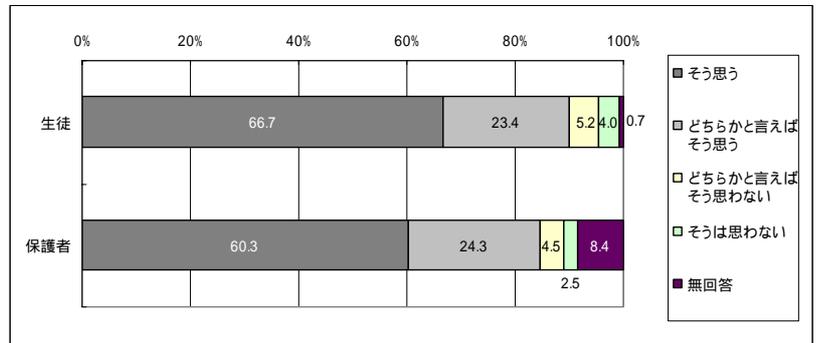
前期選抜の総合的選考について、総合的選考の趣旨を生かした選考基準となっていないという評価が市町村教委及び中学校側からなされていることは、今後の高等学校側の課題である。



(生徒及び保護者向け)

各高校の「選考基準」を平成15年度から事前に公表していることについて、学校を選択したり、受験したりする際に、参考になったと思いますか。

生徒及び保護者ともに、8割以上が「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、「選考基準」の事前公表が受験の際に参考となっていると受けとめられている。



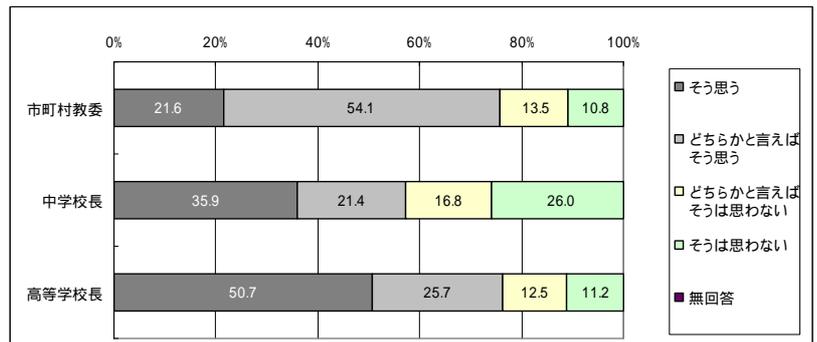
問6

(市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

各中学校の第3学年の在籍者数の20%以内の生徒に記載される調査書の「特記事項」を、今後も選抜の資料とした方がよいと思いますか。

市町村教委及び高等学校長とも、「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答したのが7割を超えているのに対し、中学校長においては6割に満たず、42.8%が「そうは思わない」または「どちらかと言えばそうは思わない」と回答している。

中学校側では、「特記事項」に対する評価が分かれている結果となった。



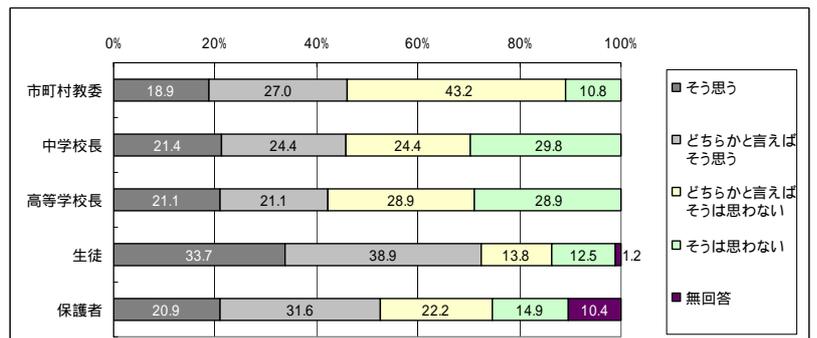
問7 (市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

進路先として定時制を積極的に選択する生徒のために、全日制の課程と定時制の課程の選抜を同一日程で実施していることについて、妥当であると思いますか。

問6 (生徒及び保護者向け)

進路先として定時制を積極的に選択する生徒のために、全日制の課程と定時制の課程の選抜を同一日程で実施していることについて、よい制度であると思いますか。

市町村教委、中学校長及び高等学校長ともに、「そうは思わない」または「どちらかと言えばそうは思わない」と回答したのが5割を超えている一方、「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」の回答もともに4割を超えている。また、生徒では、7



割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、全日制の課程と定時制の課程の選抜を同一日程で実施していることについて、肯定的に受けとめられているが、保護者では、5割程度にとどまっている。

全日制の課程と定時制の課程を同一日程にしていることについては、生徒以外では評価が分かれているという結果となった。

問8 (市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

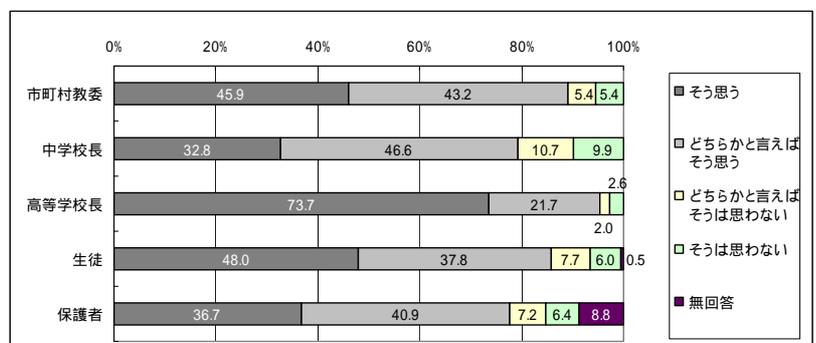
一般の全日制普通科高校における後期選抜の第1次選考では、数値Cを算出する際の調査書と学力検査の比率を、各高校が特色に応じて一定の範囲で決められるようになっていることは、よいことだと思いますか。

問7 (生徒及び保護者向け)

一般の全日制普通科高校における後期選抜では、調査書と学力検査の比率を、各高校が特色に応じて一定の範囲で決められるようになっていることは、よいことだと思いますか。

「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答したのが、市町村教委、中学校長、高等学校長、生徒及び保護者のすべてにおいて、8割近くあるいは、それ以上となっている。

後期選抜の第一次選考における数値Cを算出する際の調査書と学力検査の比率を、各高校が特色に応じて決められていることについては肯定的に受けとめられている。



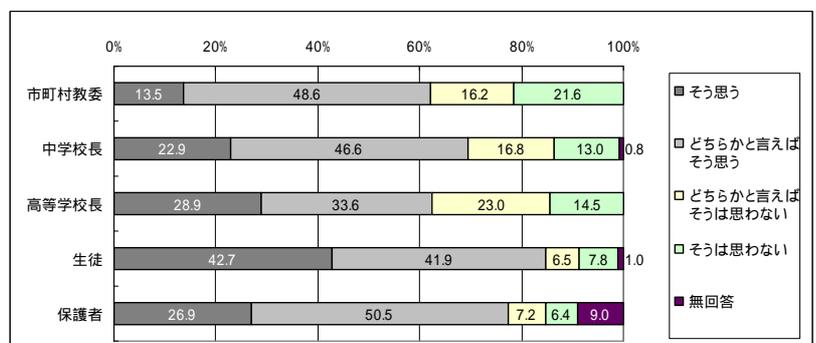
問8 - (市町村教委、中学校長及び高等学校長向け)

調査書と学力検査の比率の範囲が「6 : 4、5 : 5、4 : 6」となっていることについて、妥当だと思いますか。

問7 - (生徒及び保護者向け)

調査書と学力検査の比率の範囲が「6 : 4、5 : 5、4 : 6」となっていることについて、妥当だと思いますか。

市町村教委、中学校長及び高等学校長ともに、「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答したのが6割を超えている一方、「そうは思わない」または「どちらかと言えばそうは思わない」との回答も、ともに3割以上となっている。



また、生徒では8割以上、保護者では、7割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、比率の範囲については、肯定的に受けとめられている。

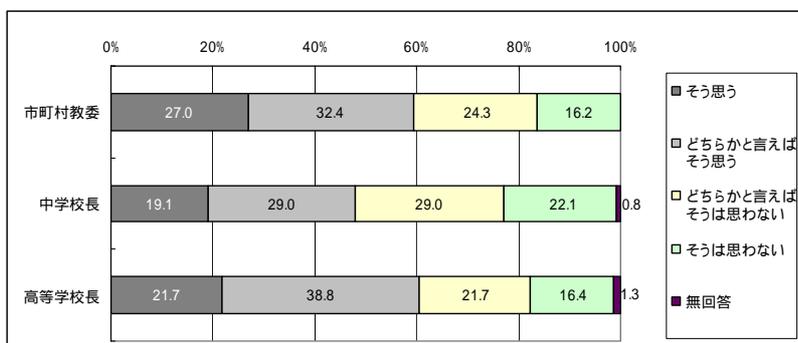
<目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の活用について>

問1 よりきめ細かく生徒の学力を見るために、観点別評価も活用できるようにしていることについて、よいことだと思いますか。

市町村教委及び高等学校長においては、「そう思う」もしくは「どちらかとそう思う」の肯定的な回答が、ともに6割前後となっている。

一方、中学校長においては、「そうは思わない」あるいは「どちらかと言えばそうは思わない」の否定的な回答が、「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答を若干上回っているもののほぼ同じ割合となっている。

観点別評価の活用については、中学校における見解が分かれているという結果となった。



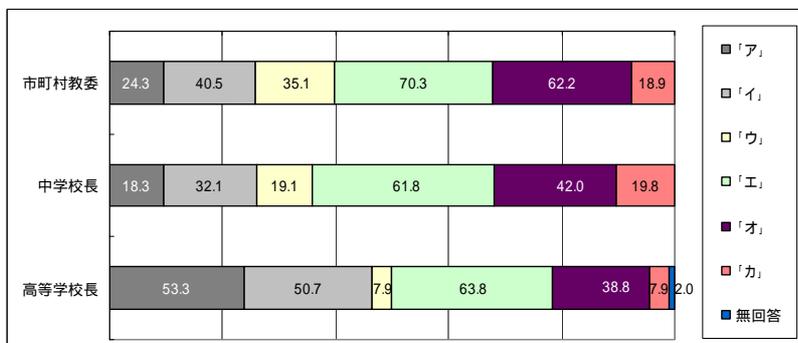
問2 今後も継続して絶対評価の精度を高めるために実施したほうがよいと思われる取組は何ですか。（複数回答可）

- ア 各中学校の評価分布の公表
- イ 評価方法の統一化
- ウ 評価資料集の改訂
- エ 統一的な客観テストとの比較による検証
- オ 教員向け評価方法等についての研修会
- カ その他

アの「各中学校の評価分布の公表」について、高等学校長の5割以上が実施したほうがよいと回答しているのに対し、市町村教委及び中学校長は2割程度にとどまっている。

また、エの「統一的な客観テストとの比較による検証」については、実施したほうがよいとの回答が市町村教委、中学校長及び高等学校長の三者ともに6割を超えている。

イの「評価方法の統一化」、オの「教員向け評価方法等についての研修会」についても、実施したほうがよいとの回答が、三者ともに比較的高い割合となっている。



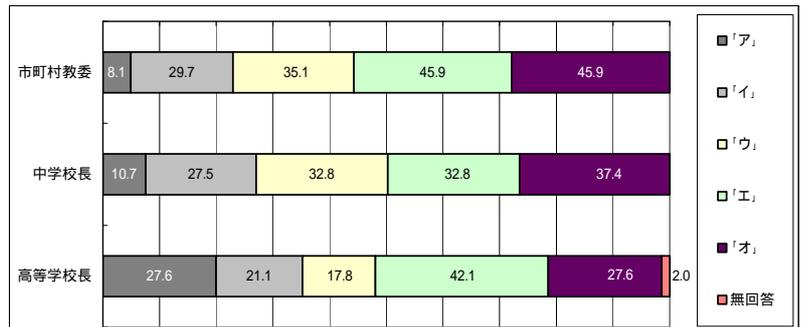
問3 入学者選抜における絶対評価の活用について、今後どのようにしていくのがよいとお考えですか。(複数回答可)

- ア 現行のままでよい。
- イ 前期選抜募集人員の割合の下限の弾力化
- ウ 前期選抜における学習の記録の活用割合の減少
- エ 普通科一般コースの後期選抜第1次選考における学習の記録と学力検査の結果との比率の拡大
- オ その他

「現行のままでよい」と考えているのが、高等学校においては、3割弱となっているのに対し、市町村教委及び中学校長においては約1割程度にとどまっている。

ウの「前期選抜における学習の記録の活用割合の減少」を回答しているのは、市町村教委、中学校長ともに3割程度となっている。

エの「普通科一般コースの後期選抜第1次選考における学習の記録と学力検査の結果との比率の拡大」を回答しているのは、市町村教委や高等学校長においては、4割を超えているのに対し、中学校長においては、3割程度にとどまっている。



< 県立高校の通学区域の撤廃について >

問 1

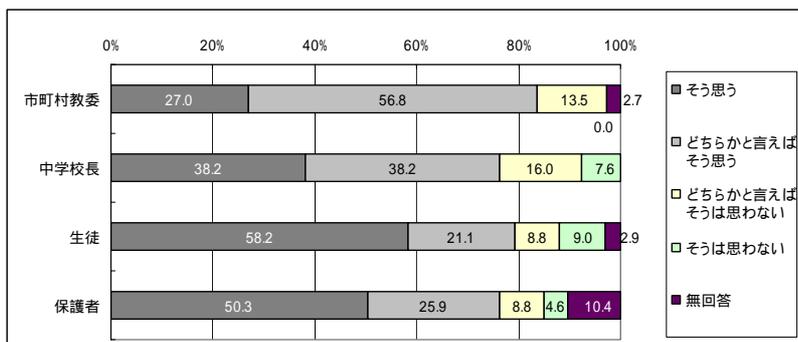
(市町村教委及び中学校長向け)

県立高校の通学区域を撤廃したことは、受検生にとってよかったですか。

(生徒及び保護者向け)

県立高等学校を受検するにあたり、県立高校の通学区域(学区)が撤廃されたことはよかったですか。

市町村教委、中学校長、生徒及び保護者のすべてにおいて、7割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、通学区域の撤廃については概ね肯定的に受けとめられている。

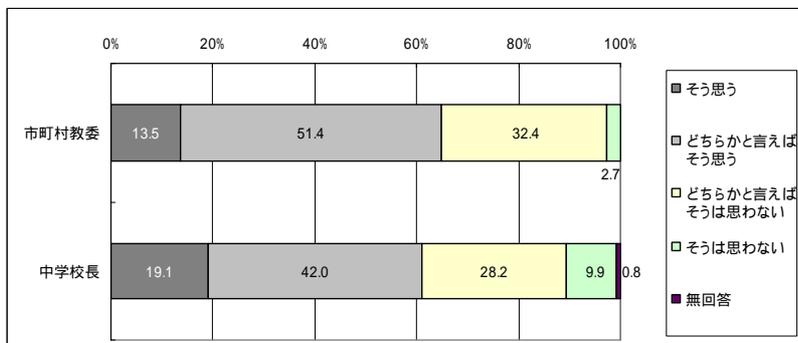


問 2

(市町村教委及び中学校長向け)

県立高校の通学区域の撤廃により、学校選択幅が広がったことで、生徒一人ひとりの特性、興味・関心や進路希望などに応じた進路指導がより一層充実したと思いますか。

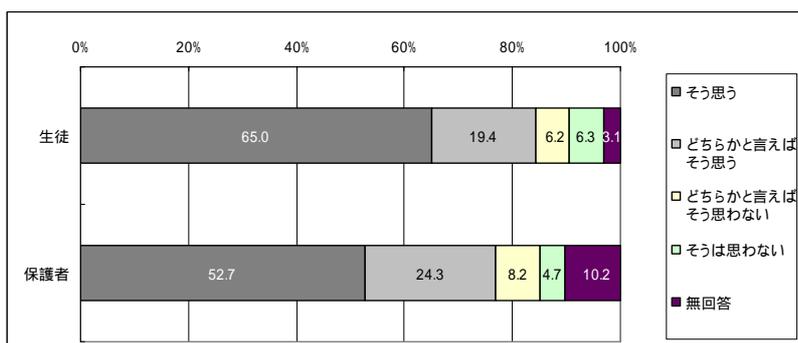
市町村教委及び中学校長ともに、5割以上が「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、通学区域の撤廃が進路指導の充実につながったと感じている市町村教委、中学校長が多くなっている。



(生徒及び保護者向け)

県立高校の通学区域(学区)が撤廃されたことで、受検する学校を決定する際の選択幅が広がったと思いますか。

生徒では8割以上、保護者では、7割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、学区撤廃により学校選択幅が拡大したと受けとめられている。



問3

(市町村教委及び中学校長向け)

県立高校の通学区域の撤廃により、各高校の特色などについて主体的に調べたり、学校説明会に積極的に参加するなど、生徒・保護者の県立高校の進学に対する意欲が高まったと思いませんか。

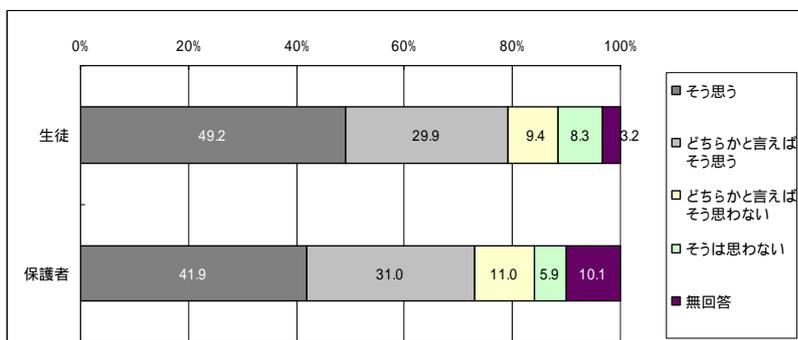
市町村教委及び中学校長ともに、7割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、多くの市町村教委、中学校長が生徒・保護者の県立高校の進学に対する意欲の高まりを感じている。



(生徒及び保護者向け)

県立高校の通学区域(学区)が撤廃されたことで、[お子さんが]学校の特色を調べたり、実際に学校に見学したりするなど、自分の個性、興味・関心や将来の進路希望などに合った学校を、積極的に探すようになったと思いませんか。([]内は「保護者用」の質問)

生徒の約8割、保護者でも7割以上が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、進路意識が高まったと受けとめられている。



3 「評点と学力検査の相関調査」の結果

横軸：調査書の評点 縦軸：学力検査の結果

(1) 5教科合計

	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
241～250																	1		2	5	4
231～240																1		6	17	22	37
221～230													1	1	1	1	2	13	29	44	43
211～220														1	1	1	4	4	13	26	26
201～210												1		1					4	6	4
191～200											8	2	3	2	4	2	3				
181～190										2	6	10	3	12	6	1		1			
171～180									1	1	15	5	12	2	3	1					
161～170								1	2	4	14	19	17	8	4	1		1			
151～160									4	6	13	24	4	9	2	2					
141～150									3	8	13	15	16	1	2	1					1
131～140									1	2	11	12	4	4	1						
121～130									1	1	4	2	1								
111～120											1	1									
101～110											2	1		1							

(2) 各教科

国語

	1	2	3	4	5
46-50			35	87	164
41-45		3	86	61	50
36-40		3	96	28	2
31-35		3	34	8	1
26-30			10		
21-25			1		
16-20					
11-15					
6-10					
1-5					

数学

	1	2	3	4	5
46-50				3	20
41-45			2	15	83
36-40			7	36	95
31-35			28	39	41
26-30		4	55	45	15
21-25		6	59	30	5
16-20		6	42	5	2
11-15	1	11	14		
6-10		1	2		
1-5					

理科

	1	2	3	4	5
46-50			3	37	179
41-45		2	12	34	70
36-40		2	44	36	12
31-35		2	87	30	2
26-30		5	57	16	
21-25		1	23	5	
16-20		1	11	1	
11-15					
6-10					
1-5					

社会

	1	2	3	4	5
46-50			6	40	202
41-45			30	50	41
36-40		2	38	32	8
31-35		2	71	32	
26-30		3	59	13	
21-25		2	24	6	
16-20			5	2	
11-15		1	1	2	
6-10					
1-5					

英語

	1	2	3	4	5
46-50				29	237
41-45			16	34	40
36-40			39	27	1
31-35		2	46	13	2
26-30		5	59	11	
21-25		5	53	10	
16-20		4	27	2	
11-15		3	6	1	
6-10					
1-5					

4 「通学区域別志願状況調査」の結果

数字は、各旧学区内高校(平成16年度入学者選抜まで学区が設定されていた全日制普通科(専門コースを含む))を受検した、旧学区内中学からの受検者及び学区外中学からの受検者の受検者合計数に対する割合(%)

旧学区	年度	前期選抜		後期選抜		前期・後期合計	
		旧学区内	旧学区外	旧学区内	旧学区外	旧学区内	旧学区外
横浜東部	16年度	90.6	9.4	92.9	7.1	91.7	8.3
	17年度	72.6	27.4	71.8	28.2	72.3	27.7
横浜北部	16年度	86.9	13.1	87.8	12.2	87.2	12.8
	17年度	69.2	30.8	72.5	27.5	70.5	29.5
横浜西部	16年度	84.2	15.8	86.2	13.8	85.0	15.0
	17年度	66.2	33.8	66.3	33.7	66.2	33.8
横浜中部	16年度	78.5	21.5	83.1	16.9	80.3	19.7
	17年度	55.0	45.0	56.6	43.4	55.7	44.3
横浜南部	16年度	85.3	14.7	89.5	10.5	87.1	12.9
	17年度	62.6	37.4	60.6	39.4	61.7	38.3
横浜臨海	16年度	85.8	14.2	87.0	13.0	86.3	13.7
	17年度	66.0	34.0	72.4	27.6	69.0	31.0
川崎南部	16年度	78.7	21.3	78.2	21.8	78.5	21.5
	17年度	70.5	29.5	58.2	41.8	65.2	34.8
川崎北部	16年度	94.0	6.0	94.7	5.3	94.3	5.7
	17年度	88.2	11.8	88.0	12.0	88.1	11.9
横須賀三浦	16年度	97.8	2.2	97.2	2.8	97.6	2.4
	17年度	93.0	7.0	91.5	8.5	92.4	7.6
鎌倉藤沢	16年度	84.2	15.8	87.0	13.0	85.3	14.7
	17年度	68.9	31.1	73.0	27.0	70.7	29.3
茅ヶ崎	16年度	83.6	16.4	83.1	16.9	83.4	16.6
	17年度	69.5	30.5	62.8	37.2	66.9	33.1
平塚	16年度	81.9	18.1	81.5	18.5	81.8	18.2
	17年度	72.1	27.9	70.4	29.6	71.4	28.6
秦野伊勢原	16年度	80.1	19.9	83.5	16.5	81.6	18.4
	17年度	69.6	30.4	72.9	27.1	71.0	29.0
県西	16年度	89.6	10.4	89.8	10.2	89.7	10.3
	17年度	85.8	14.2	86.2	13.8	86.0	14.0
厚木海老名愛甲	16年度	81.0	19.0	83.5	16.5	82.0	18.0
	17年度	68.1	31.9	68.8	31.2	68.4	31.6
大和座間綾瀬	16年度	80.1	19.9	81.4	18.6	80.6	19.4
	17年度	62.7	37.3	62.3	37.7	62.6	37.4
相模原南部	16年度	71.6	28.4	74.8	25.2	72.8	27.2
	17年度	53.0	47.0	54.1	45.9	53.5	46.5
相模原北部津久井	16年度	88.5	11.5	90.3	9.7	89.2	10.8
	17年度	81.5	18.5	82.4	17.6	81.9	18.1
全県平均	16年度	84.6	15.4	86.2	13.8	85.2	14.8
	17年度	70.8	29.2	70.6	29.4	70.7	29.3